

# 平成21年度 宇都宮都市交通戦略推進懇談会 議事録

日 時：平成22年3月26日（金）10:00～12:00

場 所：栃木県総合文化センター特別会議室

出席者：委員18名 ほか

## 開会

### 副市長あいさつ

- ・宇都宮市においては、第5次総合計画のなかで、ネットワーク型コンパクトシティのまちづくりを目指して、様々な施策事業に取り組んでいる。
- ・街の中心部を都心拠点、周辺部の核となる地域は地域拠点、日常生活を送る地区は生活圏とし、これらの拠点等を道路や交通でうまく結びつけるようなネットワークの構築のため、昨年9月に「宇都宮都市交通戦略」を策定して、その取組にあたっている。
- ・戦略においては、少子高齢化がますます進むなかで、交通弱者をはじめとした「誰もが利用できる環境にやさしい交通ネットワーク」の構築を目指し、地域内交通の導入や公共交通の利便性の向上に取り組んでいる。
- ・戦略の推進にあたっては、行政だけではなく、交通事業者、関係団体を含む市民の協力が必要であり、三者が連携を図り三位一体となって取り組む必要がある。
- ・当推進懇談会で、様々な視点からのご議論、ご指摘をいただきたい。

### 宇都宮都市交通戦略推進懇談会の設置について

#### 事務局

資料1「宇都宮都市交通戦略設置要綱」を基に説明

#### 会長選出

森本委員を会長に選出

#### 会長挨拶

- ・本市の交通の課題について、交通戦略策定協議会の中で議論してきて、今年度取りまとめることができた。
- ・この懇談会は、まとまった戦略をいかに迅速且つスムーズに効率的に進めていくかを逐次チェックをしながら、そして場合によって協力体制をさらに強化しながら進めていくものと認識している。
- ・ここに産官学、それぞれの機関を代表する方が集まっていることから、本市の発展と交通機能の強化に向かって、皆さんの力をいただきたい。

## 報告 宇都宮都市交通戦略について

### 事務局

資料2「宇都宮都市交通戦略【概要版】」を基に説明

## 議事 宇都宮都市交通戦略施策の評価について

### 事務局

資料3-1「宇都宮都市交通戦略施策評価表」を基に説明

### 会長

- ・皆様から、ご質問やご意見を伺いたい。

### 委員

- ・「いきいき70」について、年に1回のみでの交付であるが、年に1回で良いのかどうか、検討していただきたい。

### 事務局

- ・「高齢者外出支援事業」を市で進めさせていただいている。今年度15,300人の方に利用いただいて非常に好評を得ているところである。地域内交通でも利用できるようにする等、利用しやすい制度となるよう検討してくとともに、その充実等についても、色々と意見をいただきながら検討していきたいと考えている。

### 会長

- ・次年度以降の「市域の温室効果ガスの削減割合」について、環境省が作成した自治体の実行計画マニュアルや国土交通省が作成した低炭素都市ガイドラインを参考に、交通部門でどのくらいCO<sub>2</sub>を削減できるのか数値を入れていただきたい。

### 委員

- ・中心市街地の交通量が平成21年度大幅に落ち込んだため、従前の取組だけでは目標年に対してクリアできるか疑問である。今回の結果を受けて追加の施策や今後どのように考えて取り組むのかを教えていただきたい。

### 事務局

- ・「（仮称）自転車のまちづくり推進計画」の策定を進めている中で、都心部の回遊性や観光でのおもてなしの向上を図るために、レンタサイクルの充実や観光レンタサイクルの導入を施策として検討している。
- ・観光レンタサイクルは、来年度はモデル事業となるが、具体化を図って回遊性を高めること

により都心部の活性化につなげていきたい。その他の施策についても、事業の進捗を早めるなど、重点的に取り組んでいきたいと考えている。

#### 会長

- ・平成17年から平成19年における中心市街地の通行量はほぼ横ばいで、ようやく歩行者の交通量の下げ止まりになったと思ったが、平成19年から平成21年は、大きく落ち込んでしまった。
- ・郊外のショッピングセンターの立地は、概ね止まっているような状態なので、これからが中心市街地活性化の力の見せ拠である。

#### 委員

- ・レンタサイクルを利用してみると、JR宇都宮駅西口では朝のうちに既に借りられないという状況が増えており、JR宇都宮駅東口についても、休日にもかかわらず学生の利用が多い。
- ・110台の設置台数は31,000人という利用目標に対して少ないと思う。観光レンタサイクルの導入も必要だが、既存のレンタサイクルの拡充も必要ではないか。
- ・自転車の走行環境に関して、中心市街地ではバスや自動車に挟まれて走行しており、危険な状況である。その状況の解消を図っていかないと中心市街地での回遊性を高めるのは難しいのではないか。

#### 事務局

- ・現在「（仮称）自転車のまちづくり推進計画」策定に向けて取り組んでおり、戦略に基づいて、自転車を公共交通の一つとするべく具体的な施策を検討している。
- ・レンタサイクルが足りないとの多数の意見があり、観光的な視点で社会実験を実施するが、レンタサイクルの台数を増やしていくことも重要である。
- ・走行空間の整備も大きな課題となっており、緊急性を要するところからカラー舗装化等を進めているが、中心市街地等においては、安全上問題のある箇所もあり、整備の進め方については、今後ご意見をいただきながら、具体化を図っていきたい。

#### 委員

- ・政府が新成長戦略を発表したが、その中の大きな柱の一つに、公共交通の利用促進による都市・地域構造の低炭素化があげられている。具体的な施策として、どのようなものがあっているのか情報があれば教えていただきたい。
- ・それが明らかになった時点で、戦略の中でどのように施策として実施していくのか併せて教えていただきたい。

## 事務局

- ・国においても、公共交通の利用促進と低炭素化に向けて、よりCO<sub>2</sub>の排出を少なくするため、マイカーから公共交通への転換が大きな課題として捉えられ、全国的に大きな動きとなっている。
- ・MM<sup>\*</sup>（モビリティ・マネジメント）を紹介したが、国に協力をいただきながら、事業者に対するエコ通勤の拡大や利用転換策の実施を進めていく。
- ・国も様々な実験を通じて検討を進めている中で、電気自動車の活用等のテーマが上げられている。市としても、検討会等に積極的に参画しながら、様々な手段を使いながら低炭素化に向けた取組を進めていきたい。

※MM：アンケート調査を行いながら、個人の居住地や利用目的に応じた公共交通の情報を提供することで、クルマと公共交通の適切な使い分けを促す対話を中心とした施策

## 会長

- ・栃木県や宇都宮市においては自ら公共交通や自転車をできるだけ使うようにエコ通勤を実施しており、今年度も企業に対してモビリティ・マネジメントを行った。次年度以降は、学校に対する実施に向けて検討を進めている。

## 委員

- ・環境にやさしいバスの導入と既存バスの改善について、低炭素だけではなく排出ガスのPM規制<sup>\*</sup>についても検討をする必要がある。
- ・PM規制の基準強化を東京は既に実施しており、各県もそれに倣う流れが出ている。栃木県でも基準強化を実施し支援を行っていくなれば早めに実施するのも一つの策ではないか。

※PM規制：大都市地域における粒子状物質（PM）による大気汚染は深刻な状況が続いているため、大気環境の状況を踏まえ、大都市地域において自動車NO<sub>x</sub>・PM法に基づき一定の自動車に関して、よりPMの排出の少ない車を使う規制

## 事務局

- ・現在、バスについてはノンステップバスの導入を進めている。中長期施策になるが、環境にやさしいバスであるハイブリッドバスや圧縮天然ガスのバスの導入を進めていきたいと考えている。
- ・事業者と連携しながら、低公害車や低燃費型の自動車の普及促進と合わせ、積極的に進めていきたい。

## 会長

- ・社会福祉や障がい福祉の視点からご意見をいただきたい。

## 委員

- ・駅の床面表示の話が出てきたが、耳の悪い方は駅で案内放送が聞こえないという話を聞く。そのため、案内等の掲示が壁に貼っているものが多いが、壁だけでなく床面にも案内標識が必要であるので拡充していただきたい。
- ・音声信号の音は、場所や時間帯によっては「うるさい」との苦情があるようだが、市民の皆さんの理解をお願いしたい。
- ・ノンステップバスの運行については、障がい者や高齢者、車椅子の方が利用することから、バス事業者の配慮と協力をお願いしたい。
- ・大通りは、アーケードがはずれている部分があり、天気の悪い日は、傘を広げるので通行する部分が狭くなっている。高齢者はバス停でバスが来るのを待っている間、椅子がないためビルに寄りかかっている方が多く、腰掛ける椅子や雨風をしのげる屋根が必要だと思う。
- ・中心市街地の通行量が減ったという話があったが、上屋や椅子の設置を行なうなどの利便性を向上させれば、外出する機会も増えるのではないかと。

## 事務局

- ・障がいの内容によって、多方面からの検討が必要であるので、今後とも事業者と協議をしながら検討していきたい。
- ・バス停の利用環境については、郊外部のバス停の整備を進めており、今後、都心部においても、様々な検討を行ない整備していきたい。

## 委員

- ・都心循環バス「きぶな」が宮島町から表参道方面へ走っていくのを見かけた。大通りではなく路地を運行しているので、便利になっていると思う。また、タクシーもあちらこちらで乗れるので便利になっていると感じる。

## 委員

- ・タクシー事業者も、もう少しPRをやってほしいと思う。通りを歩いていてタクシーが来たら、手を上げて止まる「流し」という乗り方をPRしたい。
- ・東京から来県された方は手を上げるが、地元の客は少ない。決してそういう乗り方ができないということではなくて、そういう利用の仕方が浸透してないだけだと思うので、手を上げればどこでも止まるというようなPRを、今後、事業者でやっていけると良い。

## 委員

- ・「きぶな」について、昨年12月に双方向運行や新規路線等の提案を文書にして宇都宮市に提出した。実現することになれば、栃木県や宇都宮市の協力を得て、大々的な報道やPRを行い、利用者の方に伝わるような方法をとってほしい。

## 事務局

- ・ 中心市街地の活性化に向けて、回遊性の向上は重要であることから関東自動車から提案をいただいている。
- ・ 循環バスは非常に利便性が高く、特に観光の面を含めて充実させていくことは、戦略でも位置付けていることから、出来るだけ早く進めていきたい。
- ・ 中心市街地の活性化に向けて、ぜひ、地域の商店街を含めた皆さんのご協力をいただきながら進めていきたいと考えている。

## 会長

- ・ 「きぶな」は観光面からも非常にわかりやすいし便利である。鉄道事業者とも、さらに連携強化を図っていただきたい。
- ・ 東京スカイツリーを建設していて、押上から栃木に来ていただきたいという要望がたくさんある。猪森委員、ご意見を伺いたい。

## 委員

- ・ 東京スカイツリーへの観光客誘致と併せて、栃木や群馬を含めた東武線の沿線地域にどのように回遊してもらうかを考えている。
- ・ 宇都宮へは公共交通で来訪される方が多いと思われることから、そこから自転車でどのように繋げていくかが重要である。観光する方はレンタサイクルでどのように観光できるかを知りたい。そういったPRをする必要がある。

## 委員

- ・ まちづくり推進機構の中でも、レンタサイクルの場所がわかりづらい、台数が少なく借りられない等の意見がある。中心部の空き店舗を利用したレンタサイクルの整備についての意見もあることから、検討ができればと思う。
- ・ 自転車の走行環境についても、カラー舗装や専用通行帯を整備しているが、未整備の区間は車や歩行者に挟まれ、乗りづらく危ないと感じることから、時間はかかるが整備をお願いしたい。
- ・ 今後、新しい都市計画道路や土地区画整理事業の中で道路を整備する際には、自転車の走行空間を確保する等の自転車の走行環境の改善に向けた整備をお願いしたい。

## 委員

- ・ 関東地方整備局または関東運輸局から助言があれば伺いたい。

## 委員

- ・国土交通省としても、公共交通の活性化は非常に大きなテーマだと認識している。今後の公共交通のあり方について考えていく交通基本法の策定やエコ通勤、公共交通の活性化といった様々な支援策等を検討しており、今後とも色々と情報提供していく中で、活用していただきたいと思う。
- ・「清原さきがけ号」や「板戸のぞみ号」といった地域が主体となった公共交通が出てくることは非常に素晴らしい。
- ・これらの新しい交通を導入するにあたって、既存交通にどのような影響を与えるか等の視点も重要であることから、引き続きよく検証して他の地域にも広げていき、公共交通の利用者数が増えて行くようにしていただきたい。

## 会長

- ・ぜひ、国の協力をお願いしたい。

## 委員

- ・「宇都宮都市交通戦略」による交通ネットワークの器ができたと感じているが、事業を実施していくにあたってはその中身が重要である。
- ・レンタサイクルの話があったが、レンタサイクルのシステムを作っても、そのレンタサイクルを使ってどこを観るかどういところがあるか等のソフト面の拡充がないとレンタサイクルの利用促進は難しい。
- ・バスに関しては、誰もが移動しやすい交通環境を目指して、各種施策事業を利用者の立場に立ってどんどん推進をしていただきたい。
- ・雨の日にバスを待つ施設を欲しいという意見があったが、大通りのバス停の統合ができれば、屋根付の停留所の整備が少しずつ推進していくと思う。県としても、今後、検討させていただきたい。
- ・公共交通ネットワークはできたとしても、それを補完するような設備やソフト面の充実が必要である。皆さん方の意見等を検討しながら、市と国と共同で整備を進めていきたいと思っているので、引き続き、よろしくをお願いしたい。

## 会長

- ・宇都宮市として総合的にこの事業を進めていく立場から岡地委員、説明をお願いしたい。

## 委員

- ・本市は、これからの50年先、100年先も持続可能なまちを目指すうえで、交通がまちづくりの基本であり、交通ネットワークの構築が必要不可欠であるため、戦略を策定した。
- ・これを実現することが本市が目指すまちづくりになる。どのような中身を作っていくかが、

この戦略を生きたものにし、市民と事業者と行政がまさに一体となって進めていかななくては目指すまちづくりはできない。

- ・公共交通ネットワークは移動しやすいという事が大切であり、それは交通の観点からだけではなく、観光等のソフト面や様々な施策を併せて実施していかなければならない。
- ・宇都宮市では、戦略以外にも様々な事業を実施している。そういった情報も提示しながら、より良い、実行性の高い戦略となるよう、今後とも懇談会を開催していきたいと思う。引き続き、協力をお願いしたい。

#### 会長

- ・皆様からいただいた意見を反映しながら適切且つ迅速に戦略が進むことを期待して、議事を終わりにしたいが、よろしいか。

#### その他（仮称）自転車のまち推進計画の策定について

##### 事務局

資料4「（仮称）自転車のまち推進計画について」を基に説明

#### 委員

- ・自転車道の整備について、道路のバリアフリー化と併せて実施していかないと、道路としての連携が図られず、安全性が確保できない。バリアフリーの考えを含めた整備の検討をお願いしたい。

#### 会長

- ・ご検討いただきたい。
- ・この懇談会の趣旨については、戦略を推進するためのチェック機能を果たす組織でもあり、1年後にどれ位進んだかを厳しくチェックしていきたい。
- ・市から色々な相談や協力の依頼があるかと思うが、皆さんからの協力をいただければより迅速に効率的に戦略を進めていける。

##### 事務局

- ・以上で宇都宮都市交通戦略推進懇談会を閉会する。